世界遺産講座

第25講

第46回世界遺産委員会

世界遺産講座第25講では、今年7月に開催された「第46回世界遺産委員会」について紹介します。

「世界遺産が新たに登録されました！」というニュースを耳にしたことはあるでしょうか。

世界遺産登録の最後の関門となる世界遺産委員会。今年は、インドの首都ニューデリーで7月21日から31日まで、11日間にわたり開催されました。本委員会では、世界遺産リストに記載されている遺産の保全状況の審査や、新たな世界遺産の審議、危機遺産リストの更新などが行われました。

21カ国の委員で構成される世界遺産委員会は、諮問機関であるイコモス（文化遺産の場合）とIUCN（自然遺産の場合）の勧告に基づき、推薦書の提出のあった暫定リストに記載されている遺産の審査を行います。今年新規登録された24件の遺産のうち、諮問機関から「記載」勧告が出されていたのは19件で、「佐渡島の金山」を含む「情報照会」からの「記載」が3件、「登録延期」からの「記載」が1件、イコモスから勧告がない緊急登録が1件でした。

世界遺産の総数は1223件（文化遺産：952件、自然遺産：231件、複合遺産：40件）となり、日本の世界遺産は26件（文化遺産：21件、自然遺産：5件）となりました。

新規登録された遺産の一部を紹介します。文化遺産では、開催国インドが推薦していた「モイダム アーホーム王朝の墳墓システム」が登録されました。13世紀から19世紀にかけて、東インドのアッサム地方で栄えたアーホーム王国の「モイダム」と呼ばれる古墳群で、90基が現存しています。自然の地形を生かした独自の構造と、王国が存在した証に価値があるとして、世界遺産に登録されました。

自然遺産では、「ラヴノのヴィエトレニッァ洞窟」（ボスニア・ヘルツェゴビナ）が登録されました。洞窟内には鍾乳石や湖などの美しい景観が広がっており、様々な生物が暮らしています。絶滅の危機に瀕している動物やバルカン半島固有の多様な動物種の生息地であり、古代に絶滅した種の近縁種が発見されているという点に価値があるとして世界遺産に登録されました。

世界遺産としての価値が危機的な状況にある「危機遺産リスト」のうち、「ニオコロ＝コバ国立公園」（セネガル共和国）は、密漁や違法な採掘などにより、生態系が脅かされる状態にありましたが、監視システムの充実などにより、危機的な状況を脱したとして危機遺産リストから解除されました。

一方、パレスチナ自治政府により申請された、中東における最古の修道院のひとつで、アジアとアフリカの主要交易に位置する「聖ヒラリオン修道院／テル・ウンム・アメル」は、進行中のガザ地区の紛争の影響により、世界遺産と同時に危機遺産リストへ緊急登録となり、危機遺産リストは56件となりました。

委員会では、登録後も適切に遺産が保護されているか審議するなど、世界遺産を未来につないでいくために多くの議論が行われています。

世界遺産登録を目指している「飛鳥・藤原の宮都」は、2年後の世界遺産委員会で審議され、「記載（登録）」決議されることを目指しています。「飛鳥・藤原の宮都」を人類共通の宝として未来につなぐことを目指して引き続き頑張っていきます。

（総合政策課）

「飛鳥・藤原」みんなの活動紹介サイトに掲載する活動を募集しています。詳しくはHPをご覧ください。

▲HP